

鴨田遺跡とは？

上植野町鴨田一帯にあった弥生時代前期(2400年前)～古墳時代後期(1500年前)にかけての大きなムラの跡です。古墳時代の大量の土器や木製品とともに、竪穴住居、井戸、お墓、水田なども見つかり、乙訓地域を代表する大きなムラになりました。古墳時代には各地で大きな墓(古墳)がつけられ、首長(有力者)が埋葬されました。鴨田ムラには、古墳に埋葬された首長が住んでいたと考えられています。

鴨田ムラを支えた工房ムラ ～芝ヶ本遺跡～

4世紀頃、鴨田ムラを中心にこの地域をまとめていた首長は、ムラの北東に工人を集めて、ガラス製品をつくらせました。遺跡からは、碧玉製石釧(腕輪)やガラス勾玉(玉)の鑄型が発見されています。ガラス勾玉鑄型は、溶かしたガラスを流し込んで勾玉をつくる石や土製の型です。

ガラス勾玉鑄型



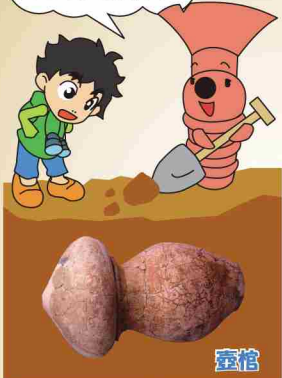
碧玉製石釧



こうして一度に
何個もつくられて
いたのね！

鴨田ムラのはじまり

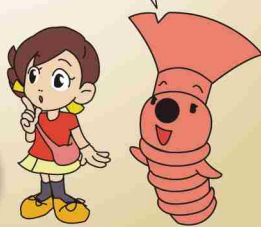
こうして土に埋めて
葬っていたんだよ！



これは、鴨田遺跡で見つかった子ども用の棺です。弥生時代前期の壺を2個合わせて棺にしています。この頃から鴨田ムラに人々が住みはじめたようです。その後、鶏冠井ムラ・森本ムラなどに居住地を移しました。鴨田ムラにふたたび人々が住みだしたのは、古墳時代はじめ頃(3世紀)です。以降、とだえることなくムラが続き乙訓地域を代表する大きなムラになりました。



鴨田ムラの人々は、淀川に
流れこむ小畑川水系を使って
遠くの情報を得ていたんだよ。

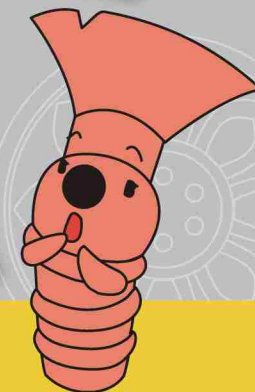


淀川流域
古墳時代の
ムラ跡分布



鴨田遺跡

かもんてん いせき



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL. 075-931-1111

古墳時代
前期の
鴨田ムラ

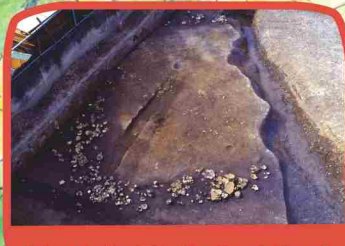
鴨田ムラ

古墳時代の鴨田ムラの様子を描いてみました。現在、一文橋を南北に流れている小畑川は、当時は現在の外環状線道路のあたりを東西に流れていました。川の南側の扇状地に東西900m、南北700mにわたる大きなムラがありました。ムラの西側には住居、東側に水田、北と南には墓場が広がっていました。有力首長の住む大きな家(居館)や、政治の場、豊作などを祈るマツリ(祭り)の場があったと想像できます。



1700年前にタイムスリップ!

向日丘陵



まわりを溝で囲んだ四角いお墓です。

芝ヶ本遺跡

鴨田遺跡の北東に、掘立柱建物のムラがありました。ガラスや金属器を生産する工場のムラだったと考えられます。

いろんな建物があるなあ。



広い地域との交流

鴨田遺跡では、山陰地方や中河内地方(東大阪市付近)から運ばれた土器が見つっています。鴨田ムラの首長は、広い地域と交流をもつことのできる力のある人物だったようです。

ずいぶん遠くから運んできたんだなあ。



居館は、まだ発見されていないけど、きっとこんなムラだったんじゃないかな。



これは田起こしに使うくわだったんだよ。



馬場遺跡

鴨田遺跡の南西に位置する長岡京市馬場遺跡では、たくさんの方形周溝墓や副葬品が見つかり、鴨田ムラの墓域だったと考えられています。

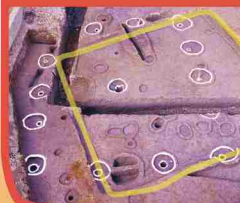


▲珠文鏡



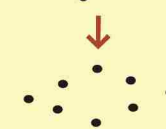
▲庄内式土器

竪穴住居のあとに掘立柱建物が建てられたのがわかります。



掘立柱建物とは

地面を掘り下げて床面とした竪穴住居に対し、掘立柱建物は柱を地面に埋め込んで地上に床をつくる建物です。竪穴住居跡のような床面は残らず、柱穴だけが残ります。



きちんと区画整備された水田跡が見つかりました。

